

10/28 「いなかふえ ほっとイレブン」 開店報告会
元協力隊員が町内にカフェをオープン！

元三戸町地域おこし協力隊員の西澤剛介さんが同心町地区の空き店舗を活用し、カフェ「いなかふえ ほっとイレブン」を開店しました。町の元協力隊員が起業するのは今回が初となります。西澤さんは協力隊員のときに参加したワークショップ「三戸町まちづくり人材塾」で「11ぴきのねこのカフェやお店があればいいな」といった意見を聞いたことから、起業や空き店舗活用などの補助金を利用し「11ぴきのねこ」関連の内装やメニューをそろえたカフェを開こうと決意しました。西澤さんは「町内外から多くの人が集まる場所になればと思います。これからも町の活性化に貢献していきたいです」と話しました。【いなかふえ ほっとイレブン】(三戸町大字同心町 33-1) 営業時間：11時～19時／定休日：不定休／連絡先：37-4769



開店の報告をする西澤さん



顕彰状を受け取る受賞者

10/3～14 敬老会各受賞者へ表彰訪問

長寿を祝い、123人、13組が表彰される

多年にわたり社会でご尽力された高齢者の長寿を祝う令和4年度の敬老会は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となりましたが、敬老会で表彰予定だった100歳6人(国と県から)、88歳夫婦13組(県から)、数え年88歳117人(町から)には、自宅や施設などで松尾和彦町長から顕彰状と記念品が手渡されました。

芸術の秋を楽しむ

11/1～3 三戸菊花展

三戸菊クラブ(稲村國男会長)主催の第50回三戸菊花展がアップルドームで行われました。会場には、町内の菊愛好家や小中一貫三戸学園斗川小学校の児童たちが育てた自慢のさまざまな品種の菊、11ぴきのねこの菊人形など約500点が展示され、会場を彩りました。稲村会長は「会員や子どもたちの協力のおかげで菊花展を開くことができうれしい。ことしも、県内外から多くの人に来てくれました。これからも来てくれた人に喜んでもらうため、菊花展を続けていきたい」と話しました。



11ぴきのねこの菊人形



作品を鑑賞する来場者の皆さん

11/4～6 三戸町総合文化祭

町民体育館で三戸町文化協会(上野悦嗣会長)主催の第53回三戸町総合文化祭が開催されました。会場では、絵画や写真、俳句、生け花など約948点の展示作品のほか、5日には舞踊や詩吟などの芸能発表会が行われました。

10/20 三戸小中生が関根ふれあい公園の環境整備 いつも使っている公園をきれいに

小中一貫三戸学園三戸小中学校 JUMP・リトル JUMP 委員の児童・生徒 20 人が、関根ふれあい公園の環境整備活動を行いました。委員は、公園内のごみ拾いや石拾い、展示されている 11 ぴきのねこフルラッピングバス車内の清掃などを行いました。委員長の寺尾千織さん（9 年）は「多くの人たちが利用する公園なので、きれいな公園だと思ってもらえるように清掃しました。これからもみんなが公園を気持ちよく利用できるよう、きれいに使ってほしい」と話しました。



11 ぴきのねこの石像を磨く生徒たち



桜の苗木を植樹する皆さん

10/26 三戸ロータリークラブが三戸学園に植樹 桜の苗木に「大きくなあれ！」

三戸ロータリークラブ（矢村英一郎会長）は、小中一貫三戸学園三戸小中学校 10 周年を記念し、敷地内にオオヤマザクラの苗木 12 本を植樹しました。植樹には、会員 7 人と三戸小 1 年生 41 人が参加。子どもたちは「大きくなあれ！」と声をかけながら、スコップで木の根元に土を被せました。子どもたちは「毎朝学校に来て桜にあいさつします」「みんなで桜を植えて楽しかった」などと笑顔で話しました。

10/31 三戸郵便局がマイナンバーカード申請支援 マイナンバーカード普及のため申請支援

日本郵便(株)東北支社（小野木喜恵子支社長）は、マイナンバーカードの申請支援に関する委託契約締結式を役場で行い、尾形信寛地方創生担当部長と松尾和彦町長が契約書を取り交わしました。本契約は県内初で、三戸郵便局窓口を訪れたマイナンバーカード申請希望者を対象に、顔写真撮影や申請書作成などの申請支援を行う内容となっています。尾形部長は「カード普及の支援をすることで、地域の利便性向上に寄与したい」と話しました。松尾町長は「地域に信頼されている郵便局の協力を得て、カードを普及させたい」と期待しました。



(左から) 橋本正俊三戸郵便局長、尾形地方創生担当部長、松尾町長



収穫作業をする生徒たち

11/1～2 弘前大学の生徒がガマズミ収穫支援 ガマズミの収穫「貴重な経験」

弘前大学の学生ボランティア 6 人と同大学農学生命科学部の岩井邦久教授が町を訪れ、ガマズミの収穫作業を手伝いました。この取り組みはことしで 3 年目となり、収穫したガマズミはさまざまな加工品に利用されます。収穫作業を行った荒凜太郎さん（大学院 2 年）は「初めてガマズミの収穫に携わりました。高いところにある実の収穫は大変でしたが、貴重な経験になりました」と感想を話しました。

11/7 法人会が町に手指消毒剤を寄贈

手を清潔に保って、感染症を予防

八戸法人会三戸支部（石亀和郎支部長）が、町内の小中学校に手指消毒剤 28 本を寄贈しました。消毒剤の寄贈はことしで 11 年目となります。訪問した宇藤毅平副支部長は「手を清潔に保つだけでも、予防に大変効果がある。さまざまな感染症に備え、有効に活用してほしい」と話しました。慶長隆光教育長は「子どもたちの健康管理に寄与するため、積極的に活用させていただきます」と話し、消毒剤を受け取りました。



(左から) 宇藤副支部長、慶長教育長



絵本を受け取る園児

11/8 町内の児童・保育施設などに図書を寄贈

子どもたちの健やかな成長のために活用

町は、絵本「11 ぴきのねこ」シリーズの出版社である(株)こぐま社と本社代表取締役社長の廣木和子さんからの寄附金を活用し、町内の小学校と児童・保育施設の計 9 カ所に「11 ぴきのねこ」シリーズをはじめとした絵本や書籍を寄贈しました。この寄附金は、7 月に行われた「ほのぼの館リニューアル記念セレモニー」の際にいただいたものです。学校や学童施設には絵本と書籍 15 冊、保育施設には絵本 18 冊が送られました。いずみ幼稚園（小野正志園長）で行われた寄贈式では、松尾和彦町長が「読書や読み聞かせなど、子どもたちの健やかな成長の一助となるよう、活用してほしい」と話し、園児たちに絵本を手渡しました。

11/14 災害等における廃棄物処理等の協力に関する基本協定 地域の環境保全のために基本協定を締結

奥羽グリーンテクノロジー(株)（笹垣岳史社長）と町は、災害等における基本協定を結びました。締結式では、笹垣社長と松尾和彦町長が協定書を取り交わしました。今回の協定は、地震、風水害、その他の災害が発生、または発生する恐れがある場合や、不法投棄などにより、地域環境に支障を及ぼす恐れのある場合において、同社の管理する施設を利用して、適正かつ円滑に地域の復旧活動が行えるよう備えるものです。松尾町長は「災害時における廃棄物などを迅速に処理し、早期復旧できることを期待しています」と話しました。笹垣社長は「地域の環境保全と災害時の廃棄物処理などに貢献できるよう、自覚と責任をもって業務に当たりたい」と話しました。



(左から) 笹垣社長、松尾町長



研修を受ける牧之原市の皆さん

11/14 牧之原市議会が町に行政視察

町の小中一貫教育について学ぶ

町の友好都市である静岡県牧之原市の議会は、行政視察のため町を訪れました。視察には、市議会議員 15 人、杉本基久雄市長、市職員 4 人が来町。SAN・SUN 産直ひろばの見学や、小中一貫三戸学園で研修を行いました。その後、役場で行われた交流会で、三戸町議会の竹原義人議長は「本日の研修が少しでも牧之原市の役に立てたらうれしい。両市町の友好がますます深まることを願います」とあいさつしました。牧之原市議会の植田博巳議長は「大変すばらしい学校を案内していただき、感謝しています。牧之原市の学校再編にも役立てていきたい」と話しました。